

『一流』を味わう事の意義

株式会社 マロネイト 代表取締役社長
 株式会社 ジェーエヌエル 取締役会長
 株式会社 日本ビジネス・システムズ 代表取締役会長

岡崎 宏行

『夢』は大きい方が良い

最近、大学での授業を通じて感じる事があります。『現状に満足している学生が多い』一方『とんでもない野心家もいる』という事です。

満足している学生が多いのは、不景気だと言われながらも、居食住に困ることなく、自分のやりたい事は殆ど行え、自分の欲しいものも余程の高望みでは無い限り、手に入ってしまう恵まれた世の中であるが所以なのでしょう。ほほえましく見える反面、『これで良いのか?』とってしまいます。

というのは、『満足から革新』は起きにくいと思っているからです。『満足』することも勿論大事なことです、更なる『夢』や『目標』を持つことを阻害してしまう可能性があると思認識しています。

一方、『とんでもない野心家』には、思わず感激してしまいます。このエネルギーが大きければ大きいほど、実現の可能性も高くなると思っています。

そんな意味でも、『夢』は大きい方が良いと思っています。『夢』以上に大きい事を実現する事は、難しいと思っていますから。

どうやって大きな『夢』を描く?

次に、その大きな『夢』をどうやって描くかですが、ここが一番大事な気がしています。

思い起こせば、小さい頃は実現しそうもない大きな『夢』を持っていました。大人になってしまうと、

- ①そんな事、実現できる訳がない
- ②どうやったらそんな事実現できるか難しそう
- ③そんな『夢物語』より『現実』だ

という大人じみた考え方が邪魔をしている気がしています。

そういう意味では、無邪気に現実を知らないで、自由に考えられる環境は大事であると思うのです。

『無責任』に『こうなったらいいな』とか『こんな事が出来たらいいな』と心の底から思えば、そして、『諦めなければ』その『大きな夢』も必ず実現できると信じています。

私自身は、「鉄腕アトム」や「鉄人28号」の時代に幼少期を過ごしたのですが、そこで描かれていた多くの空想の世界は現実のものになっている気がしています。

その時代（50年も前の事ですが）にもリモコンはありましたが、コードが付いているのは当たり前で、ワイヤレスなど現実離れしていました。でも、『そんなモノがあると良いな』と思っていましたし、携帯電話もアニメに出ていた記憶があります。

今では、携帯電話は当たり前、テレビのワイヤレスリモコンも当たり前、その時は想定外と思っていた大きな夢も実現するものなのです。

ただ、そこに至るプロセスには並々ならぬ努力の軌跡があったと認識しています。

テレビのリモコンも、当初は、チャンネル自体がモーターで回転するメカニカルなものでした。それが、電子的な構造に変わり、一部のテレビに標準でつけられるようになり、今では、リモコンでないテレビを探すことも選択する事も難しくなっています。リモコンは、当たり前になっているのです。

携帯電話も同様です。昔は、家庭の電話もワイヤレスでなく余程の家でない限り、一家に一台、その場所に行って受けたり、かけたりしていたものです。

それが、家庭用電話器もワイヤレスになり、子機も増設できるようになり、本当に便利になったと感じたものでした。その段階で、殆どアニメの世界に近づいたのですが、更にどこでもかけられる携帯電話が出現して、今ではそれが当たり前になってきています。

海外の映画で車を運転しながら電話をかけているのを見て、そんな時代が来るのかな…とと思っていた頃を懐かしく思い出します。車のトランクから携帯電話のアンテナを立てて颯爽と走る車も懐かしいモノになってしまいました。

このように振り返ってみると、夢として描かれたモノは、確実に実現の方向に進んでいるのです。

そう言えば、とんでもないと思っていた『月』への飛行も1969年に実現してきたのですから…

実現可能性を考えない貪欲さ

先述した『とんでもない野心家』に通じる処なのですが、彼らは『実現可能性』にとらわれていない気がするのです。

ここに大きなポイントがあると思っています。

実現可能性よりも、実現する事による『メリット』に意義を感じ、何が何でも実現したいと思う『情熱』がエネルギーの源になっているのです。

その諦めない『気持ち』が、現実を動かしてしまうと思うのです。例え、実現までに何年かかろうと…。

そして、実現するまで『何故、実現しないのか?』と原因分析を繰り返すことで、確実に成功への道を歩むことが出来るのです。

とんでもない野心家も、これから大きな壁に何度もぶつかる事でしょう。ただ、その壁を1つずつ乗り越える事で確実に実現に近づいて行くのです。全ては、実現したいという『強烈な情熱』をもち続けることに尽きるのです。

ベンチマークの重要性

話は、現実的な世界に戻りますが、『ベンチマーク』の意味は再認識しておきたい気がしています。

世界中の何処かで実現している事は、十分に実現できる可能性を秘めているのです。そこをベースに更に大きな夢を描くことには、意義があります。

そこで大事な事は、そのベンチマークを知っているかどうかという事です。

先ほどの例で恐縮ですが、自分の使っているテレビは、テレビ本体に付いているスイッチでしかチャンネルを選択できないとしましょう。せめて、寝室では、寝たままでチャンネルやボリュームのコント

ロールが出来ると嬉しい、何とか出来ないだろうか？ と考えたとしましょう。夢としては、十分に納得できます。その実現の為に、種々工夫して、ベッド脇のサイドテーブルにスイッチを取り付けたとしましょう。本人にとっては大きな満足なのですが、世の中に『ワイヤレスリモコン』が存在していることを知っていれば、そんな工夫は要らなかった事になるのです。

最先端が、どこまでのレベルに至っているか（ベンチマーク）を認識しておく事は大事な事なのです。

とすると、同じリモコンについても『夢は膨らんで来ます』。世の中には、音声認識が出来るシステムがあります。そう言えば、車の電話も音声だけかけられる仕組みは存在します。なら、テレビのリモコンも、音声認識で行えないか？ と考えられるのです。

そこまで来れば、寝室の照明も空調も音声でコントロール出来るのではないかと。更にはカーテンだって音声で開閉出来るとさぞかし便利だろうな。その上、雨戸だって…と、ワクワク展開できてしまうのです。

この思考プロセスに拍車をかけるのが、ベンチマークの存在なのです。安心して更なる夢を膨らませる事が出来るし、組み合わせによるジャンプの切欠をつくってくれるのです。

『一流』を味わう意義

このベンチマークと同じような役割を果たすのが、『一流』に触れる事だと思っているのです。それが、今回のテーマです。

『二流』をベースに夢を膨らませるよりも、『一流』をベースに更なる夢を膨らませた方が、より大きな夢を描ける事は言うまでもありません。

そして、『一流』と言われるものには、その所以となる訳がある事も忘れてはいけません。中途半端でない徹底の暁にもたらされた『一流』の存在なのです。

それを感じられる『感受性』が必要なのです。

その上で、更なる貪欲さで『夢』や更に高い『目標』を目指す事で、『超一流』を実現できるのです。

『井の中の蛙』にならない為にも、世の中の『ベンチマーク』を認識し、『一流』を味わっておく重要性を感じているのです。

『一流』を味わうとは

ここで『一流』の味わい方について、考えてみたいと思います。というのは、コミュニケーションのエネルギーとして図のような事が言われているからです。

自己が認識している情報のエネルギーは、文字情報では僅か7%でしかないという事です。

即ち、体験する事が大事だという事です。

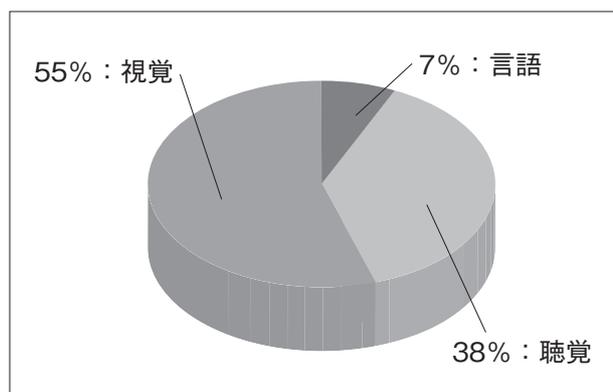
ハワイの『カラッとした空気』に対する認識も体験に勝るものはないのです。いくら文章で示されても、その感覚は理解できても感じる事はできないのです。

そんな意味でも、多くの『一流』を味わうチャンスは利用して欲しい気がしています。

ファーストクラスに乗るチャンスがあるのであれば、是非体験して欲しいし、一流の人に会うチャンスがあれば是非活用して欲しいし、そのチャンスを得るべき努力も行って欲しい気がしています。

『一流』を味わう意義と味わい方について述べてきましたが、更なる重要なポイントを付け加えておきたいと思います。

図 コミュニケーションのエネルギー



『一流』の味わい方の更なるポイント

それは、

- ①標準的なモノも知っておく事
- ②『一流』たる訳を自分なりに分析する事
- ③更なる『極め』を一人称で模索する事

の3つです。

まず「①標準的なモノも知っておく事」についてですが、これは極めて重要な事です。

『一流』の良さが分かるのは、標準的なモノを知っているが所以です。そして、その違いが認識できこそ、一流の良さを再認識できるからです。

その上で、「②『一流』たる訳を自分なりに分析する事」についてですが、『自分なりに』が大事な処です。人が何と言おうと「自分としては…」の分析にこだわって欲しい気がしています。それを『五感』で感じて、身体にアンカリングして欲しいのです。その認識が更なる発展やこだわりのヒントとして大きな作用をもたらすと認識しています。

最後の「③更なる『極め』を一人称で模索する事」ですが、ここは独りよがり構わないと思っています。

ここでは、一般的にはとか、市場は…とか考えないで、私だったら「こうして欲しい」「こうなると更に嬉しい」と考える事です。自分が求める『究極は何か』を、一流をベースに模索するのです。

本当にどんな事をして、それを得たいと思えば、それは、自分にとって大きな『価値』があるのです。自分の『情熱』で実現すれば良いのです。(そのスピードは情熱の大きさによって変わってくると思いますが…)

そして、その『極めた価値』は、多くの人にも受け入れられる『マーケットバリュー』の高い存在になっている場合が多いと思うのです。

『遊び心』と『余裕』がベース

この一流を味わうプロセスは、『遊び心』をもっ

て進めて欲しい気がしています。それも『余裕』をもって進めて欲しいのです。つきつめて考えて実現する類のものではないと認識しているからです。

『こんながあると良いな』『こんなこと実現したいな』は、そんなスタンスから自然に生まれてくるものだと思っています。

机に座って考えるものではなく、種々の貴重な体験から醸し出されるモノである気がしています。

『遊び心をもって、もっと多くの体験をしよう』そして『出来れば、一流に触れよう』と思う事で、『心豊かな生活』も実現できるような気がしています。

今の環境をフルに活かして

学生には「学生でしか出来ないこと」「今でしか出来ないこと」を意識して学生時代を過ごして欲しいと良く話すのですが、これは、社会人になっても同じ事が言えると思っています。

その中で、『一流を味わう』という角度での模索を楽しく盛り込んで欲しい気がしています。その為には、アンテナを高く掲げて、何にでも興味を持ってやってみる姿勢が不可欠だと思っています。

但し、『一流』が当たり前にならないように…

『一流』を知っている事が、有効である事は、今まで整理してきた通りですが、『一流』が当たり前になる事は、不幸をもたらしかねません。

いつも美味しいモノを食べていると、殆どのモノが不満足になってしまう現象が起きてしまうからです。

『一流』を知っておく事は大事ですが、『一流』が当たり前にならない工夫も必要ですね。

■御意見、御質問は

E-mail:okazaki@jnl.co.jpへお気軽にどうぞ!